

平成20年度

県小教研 学習指導改善調査事業

研究実践協力校 加茂市立石川小学校

【所在地】 〒959-1312 加茂市石川 2-2-7 TEL 0256(52)9853

【規模】 児童数 375名 学級数 13学級

1 改善事業の受け止め

本校は、平成19年度より、研究主題を「コミュニケーション力を育てる授業の創造」とし、その実現に取り組んできた。

コミュニケーション力を身に付けるためには、表現技術の習得も大切であるが、何よりも話す内容が重要である。自分の思いや考えを相手に分かるように伝えるためには、客観的な論理力が必要である。この論理力の土台になるのが、当事業で調査する「思考力・判断力・表現力」である。

これらの力を客観的に判断する資料として、この学力改善調査は有効である。ここで導き出された成果や課題を分析し、改善を図ることが、本校の研究主題を達成するための有効な手だてになるものと考えている。

2 校内研究とのかかわり

本校は、児童にコミュニケーション力を育てることを研究の目的にしている。そのために、学年部ごとに「児童に付けたい力」を設定した。

この「児童に付けたい力」の項目の中に、当事業で調査する「思考力・判断力・表現力」を基にしなければならないものが多い（以下に一部紹介）。

《低学年部》

- 伝えたいことが、相手に分かるように順序よく話すこと。
- 話の内容を正しく聞き分けること。
- よく分からないことや、もっと知りたいことについて質問すること。

《中学年》

- 考えのまとまりを作りながら話すこと。
- 話の中心点を聞き取ること。
- 相手の話の内容を受けて、話題に合わせて話をする事。

《高学年》

- 組立てを考え、趣旨をはっきりさせて話すこと。
- 事象・感想・意見を区別しながら聞き取ること。
- 自分の疑問点や相手の意図を確かめるために尋ねること。

これらを身に付けさせていくため、コミュニケーションの技術の習得と並行して、教科の中で「思考力・判断力・表現力」を伸ばしていかなければならない。

3 児童に伸ばしたい力の設定

本校では、学力改善調査を7月9日（水）に行い、学年ごとに集計・分析を行った。その結果、そして、次のように「伸ばしたい力」を設定した。

	国 語	算 数
4 学 年	○資料を収集し、活用する力 ○文章を構成する力	○操作したことを筋道立てて説明する力 ○図表を正確に読み描きする力
5 学 年	○適切な資料を選び、活用する力 ○根拠を明確に表現する力	○数値や量を基にして、筋道立てて説明する力

6 学 年	○資料を読み取り、 適切に用いる力 ○問題点を見付け、 反論する力	○図表を正確に読 み取り、立式した り説明したり解 答したりする力
-------------	--------------------------------------------	--------------------------------------------

4 取組の概要

9月に学年ごとに「伸ばしたい力」を確認した。以降、国語や算数に限らず、すべての教科において、「伸ばしたい力」を念頭に置いて、授業の工夫を行っている。

その中で、国語においては、校内研究に絡めて、学年部毎に「話す」と「書く」を組み合わせ合わせた授業を展開した。具体的手だてについては、個々の学級担任にゆだねることとしたが、コミュニケーション力のベースとして、「伸ばしたい力」をどのようにして向上させていくかという視点を新たに付け加えたのである。実際の授業では、図書等の実物資料や発表メモの作成などの工夫が多く見られた。

算数においては、少人数指導担当教諭をリーダーとして、実践を進めてきた。本校は、原則的に能力別でなく、均等型でグループ編成を行っている。その中で、多様の考えを導き出させたり、時には教え合わせたりして、友達とのかかわりから学ぶことも大切にしてきた。また、「型分け問題プリント」を使っての個別指導の充実も図った。

5 授業実践例

(1) 国語

①単元名 「自分の考えを発信しよう」(6年)
平成20年12月実践

②授業者 6年2組担任 渡辺 元栄

③ねらい

○多種ある資料の中から、自分の書きたいことに適した資料を選び、構成を工夫して作文を書く。

④指導経過

本単元では、教材「平和のとりでを築く」で学習したことを基に、自分の考える「平和」について、資料を用いながら考えをまとめ、それを発信することにした。

平和に関する資料を、自分でなかなか集められない児童もいるので、まず、社会科の教科書や資料集にあるものを全員の資料とした。その上で、仮要旨を立てさせ、さらに仮要旨に適した資料をインターネットや図書で探させた。

こうして、一人最低5つ以上集まった資料の中から、仮要旨に適したものを二つ選び、それを作文の「なか1」「なか2」の柱として、論を展開するように働き掛けた。

⑤実践の様子

本実践では、選んだ資料を論の中心にきちんと据えることができ、かつ、全体の構成を見通せるように、「作品構成表」を用いた。「作品構成表」は物語や説明文の構成を読み取ったり、作文やスピーチの校正を組み立てたりする場合に用いる。

この構成表を作ることにより、話をそらさずに作文を書き進めることができる。

構成	柱	筋	結
戦争と平和	平和は、戦争を止めることである。戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。	戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。	平和は、戦争を止めることである。戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。
戦争と平和	平和は、戦争を止めることである。戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。	戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。	平和は、戦争を止めることである。戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。
戦争と平和	平和は、戦争を止めることである。戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。	戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。	平和は、戦争を止めることである。戦争は、人を殺すことである。平和は、人を殺さないことである。

本学級の児童は、この手法を5学年時から経験しているが、本単元のように、資料を選択して、それを柱にして論を進めるとするのは初めてである。

しかし、児童は既習経験を生かし、全員

が資料を選ぶことができた。その上で、「支える事実や考え」の欄を、「・印…事実、○印…考え」というように書き分けていた。

時間内に終了しなかった児童については、家庭学習とした。翌日点検したが、未熟なものも見られたが、全員「作品構成表」を完成させていた。

⑥実践の成果と課題

⑦実践の成果

「作品構成表」を作ることで、内容・表現に差はあるものの、全員が、資料を二つ用いて「平和」についての作文を書き上げることができた。

作文の内容としては、若干名については、資料を十分活用しているとは言えないものの、ほとんどの児童が資料を読み手に分かりやすいように用いて、論を展開させていた。

「作品構成表」は、児童に作文構成を考えさせ、筋の通った作文を書かせるのに有効な手法であった。

⑧実践の課題

児童は、自分の作文に必要な資料を選ぶことはできたが、一つ一つの資料に対する読み取りが浅かった。この要因の一つに、じっくり資料を検討する時間の確保が十分でなかったことが挙げられる。資料を選んだ後に、もう少し時間をかけて、資料の読み取りを深めさせ、考えを練らせればよかった。

また、そのための指導も弱かった。国語だけでなく、社会や理科などの他教科の時間も使って、資料の読み取らせ方の指導が今後の課題となる。

(2) 算数

①単元名 「図形の面積」(5年)

平成20年11月実践

②授業者 少人数指導担当 渡辺 徹

③ねらい

○さまざまな図形の面積の求め方について理解させ、習熟を図る。

④指導経過

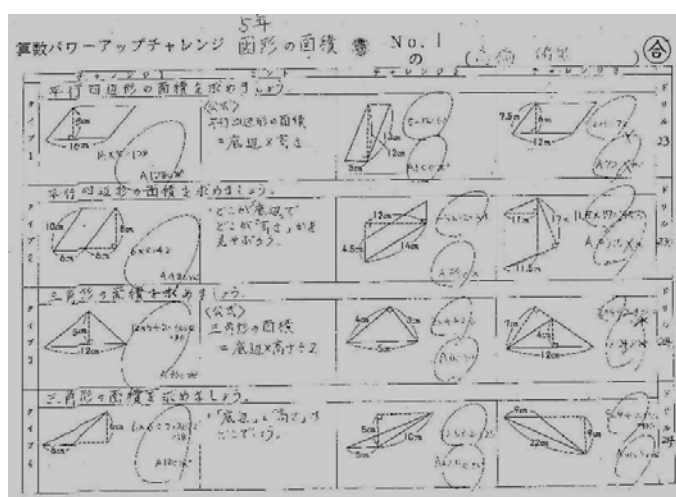
授業者は、本校の算数少人数指導担当として、3～6年生の指導に当たり、他学年と同様に5年生でも教科書の内容をていねいに指導することを主眼にしている。

教科書の指導計画に従って指導しながら、適時、型分け問題プリントを使用して個別指導を適切に行いながら、習熟を図る。

⑤実践の様子

本実践では、より確実な個別指導・習熟指導を図るために、「型分け問題プリント」を作成し、使用した。

教科書の例題を4題ほど指導する毎に、下のような1枚のプリントを用意する。プリントは、4題の例題毎に類題3問を横に配置してある。



児童は、初めに左列の4問を解く。終わったらずちに教師の所で点検を受ける。4問とも正解なら、次の段階の中列の4問、左列の4問と進んでいく。間違いがあった児童は、アドバイスを聞き、再度自席で解いてから再び並ぶ。

このように4問の例題について、それぞれの類題を3問、合計12問に正解することを目指してプリント児童に取り組みさせる。

全部正解した児童には、ドリルや教科書の練習問題のページを指示しておく。

⑥実践の成果と課題

⑦実践の成果

一度に12問を解かせるのではなく、4問ずつ3回に分けることにより、理解の遅い児童から理解の早い児童まで、力量に応じて個別指導をすることができた。たとえ、理解の遅い児童が4問しか解けなかったとしても、本時の指導内容にはすべて触れており、目標とする学習は成立している。理解の早い児童も、より応用的な問題のプリントなどに取り組むことを指示しておくことができる。

⑧実践の課題

本実践の型分け問題プリントでは、主に同レベルの基礎的な問題を類題として扱った。しかし、新指導要領では算数における「活用力」が重視されている。

そこで、今後は、より活用力を養成できる類題をこの型分けプリントに取り入れる予定である。問題の右列へ進む毎に、より活用力を必要とする問題を配列する。

6 本年度の成果と課題

(1) 本年度の成果

①本年度の校内研究と絡めての指導

本事業において設定した児童の付けたい力を、本校の研究主題であるコミュニケーション力向上においてのものと同じように設定できた。このことにより、特に国語において、昨年度からの成果と課題を生かして、指導を進めることができた。

本年度の研究実践には、書く活動を多く取り入れたものが多かったこともあり、多くの児童が時間内に書く量が増えた。書く

ことに抵抗感を感じなくなったようである。また、児童は、論理的に考え表現する力が確実に向上していった。これらは、児童の作文より分析できた。

②指導の系統性

算数では、少人数指導担当者が、4～6学年を一括主導しているため、どの学年も指導方法を統一して行うことができた。

このことで、学年による指導の格差がなくなる。さらに、少人数指導担当者が、学年の指導の系統性を踏まえて、プリントや視覚教材などを準備してくれるので、どの学年も目指す方向が一緒になる。

(2) 今後の課題

①資料をより深く読み取る力の向上

児童は、資料を集めるのは好きである。また、インターネットなどの活用力も向上し、資料を集める力も向上している。しかし、集めた資料をじっくり検討・吟味する力が、まだ不十分である。

今後は、集めた資料をどのように吟味し利用していくかという力を育てていかなければならない。それにより、作文やスピーチ、討論などの内容が一層充実していくことが期待できる。

②型分け問題プリントの工夫

本年度使用した型分け問題プリントは、本校の実態を踏まえて、基礎的な問題を中心にして作ってきた。このことにより、児童の基礎的な力が向上したのは確かな事実である。

今後は、この培った力を活用できるようにしていかなければならない。そのための型分け問題プリントの一層の工夫が必要となる。